共生社会の実現が目的

この予算は全額東京都の補助金です。梶野、三楽公園を「インクルーシブデザインに配慮した公園、菜園及び子どもの居場所」として整備します。環境政策課・緑と公園係が担当する事業ですが、「子ども同士及び保護者同士の相互理解を促す共生社会の実現」が目的とはなかなか素敵です。

しかしそのためには、そこにプレイワーカー(※)がいることが重要です。インクルーシブな遊具を設置しても、使い方が分からない親子もいますし、人気の遊具の行列にずっと並ぶのは難しい子もいます。困ったことがあっても、お互い不慣れでは大人でも声をかけにくく、混乱や摩擦も起こり得ます。その場にいて、多様なニーズの子どもや保護者にも「どうしたの?」「こうしたら遊べるよ」などと声を掛けられる、経験豊かなワーカーの存在が欠かせません。

(※)様々な子どもたちが一緒に楽しく遊ぶための補助や見守りをする専門の運営スタッフ

砧公園「みんなのひろば」では

市役所担当職員が見学して感銘を受けたという、世田谷区にある都立砧公園「みんなのひろば」の見学会に参加しました。

砧公園の広い敷地の一角を白や青、黄などのフェンスで囲った中に、お皿型のブランコやスロープ付きの大型遊具、音が出る楽器遊具や静かに過ごすことができる切り株型のシェルターもあり、大勢の子どもたちで賑わっていました。

2020年にできたこのひろばは、(公財)東京都公園協会が管理運営し、(一社)TOKYO PLAYのプレイワーカーが遊びの手助けをしています。当時は丁度コロナ禍の真っ最中、準備段階で住民たちの声を聴くことは出来ないまま開園。その分、当初からプレイワーカーが来場者の声をヒアリングし続けてきました。

▲「みんなのひろば」の雨どいでどんぐりコロコロ遊具。移動型ベッドの子どもも一緒に遊んでいた

みんなの声を聴き続けて「変わる」「育つ」公園

フェンスで囲むと入りにくい印象もありますが、「子どもがすぐに出てしまうので、付けて欲しい」という保護者の要望もあります。近隣住民からは「フェンスもあるし、子どもだけの所かと思った」との声がありました。また当初は白一色でしたが、来場者のお母さんからは、「バラバラの色の方が集合の目安になり分かりやすい」と聞きました。そうした声はワーカーから公園協会に伝え、公園協会はすぐにフェンスを別々の色に塗り分け、フェンスに門を付け、鈴をつけ、入り口に掛けた対象年齢の数「0~12」は「0~300」に変更。誰でもOKと強調しました。見学会の日も子どもたちが「301歳は入れないんだ!」と笑い合っていました。こうした変化を見た人々は、「自分たちの声で変えられるんだ」と実感しますよね。「3年目の今、まだまだ変わります、育ちますよ」とひろばでプレイワーカーは話してくれました。

お互いを知ることから始まる共生社会

東京都のインクルーシブ公園ガイドラインには「運営管理の計画時には、プレイワーカー配置について検討する。」とあります。小金井市はこれから作っていく段階ですから、当事者の声を聞いての検討が必要です。

「インクルーシブ公園」が出来ただけでは「共生社会」にはつながりませんが、遊具などハードの整備がきっかけで、これまで出会わなかった子どもたちが一緒に遊べるようになります。知らない人同士に話しかけるって難しい、と感じる人は多いけれど、気が付いたら、知らない家族が一緒に遊んでいたとなるように、声を掛けたり困りごとを聞くなどして知らない人同士をつないでいく場所となるためにも、プレイワーカー配置を期待します。(田頭祐子)

▲都立府中の森公園内「もり公園にじいろ広場」の大型遊具(写真上)と、車いすでも遊べる砂場(同下)

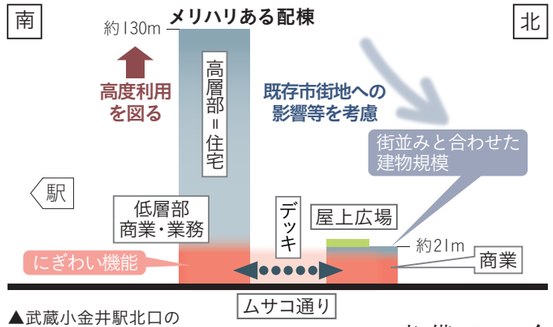
市議からのメッセージ

市議会議員 安田けいこ

動き出したムサコ北口再開発

駅前の西友が2017年に閉店して以来、閑散とした印象の武蔵小金井駅北口。市民の関心が高いこのエリアの再開発について、市は駅前にふさわしい開発を誘導するために方針を策定するとして、武蔵小金井駅北口のまちづくりの方針(案)を公表しました。9月に2回の説明会を開催、10月にはパブリックコメントの募集も行われました(募集はすでに終了)。2008年に武蔵小金井駅北口再生協議会が発足し、事業費高騰で一度は計画が頓挫したものの、地権者による再開発準備組合が設立され、地元発意によるまちづくりが模索されてきました。今回の方針策定は、小金井市都市計画マスタープランに沿った開発になるよう、先に市としての方針を定め、事業を適切に誘導することが目的と説明されています。

駅から旧西友ビル北側のムサコ通りまでの動線を確保、建物のセットバックと無電柱化で道路を広くし歩行者が通りやすくする、広場を作るなど、商店街の賑わいに資するための工夫が感じられる計画です。一番気になるのは、高さ制限130mというビルの高層化です。事業費を賄うために高層化して床面積を増やすことが再開発の定石となっていますが、人口減少の時代、高層マンションが次世代への負の遺産にならないか気がかりです。



▲武蔵小金井駅北口のまちづくりの方針(案)を元に作成

武蔵小金井駅北口まちづくり方針案の詳細は、小金井市ホームページをご参照ください▶

旧西友北側のムサコ通り▼(小金井街道側から西方向を見る)

市議目市民

自らの老後に思うこと

出かけるのが億劫になった、と感じたら、まずは地域包括支援センターに連絡して要支援認定を貰おう。そして週に1~2回デイサービスに行こう。1回2千円として、月8千円~1万6千円。最近はリハビリや筋トレに特化したデイもあるし、この先は各自の趣味嗜好にあったデイも増えるだろう。車で送り迎えしてもらって、同好の士と共に楽しい時間を過ごし、お昼を食べて夕方帰る。

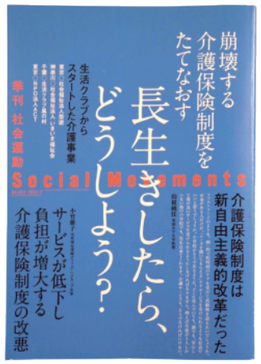
ヘルパーさんにも週1~2回来てもらおう。1時間約250円で月1~2千円。はぁと・ぽっとの配食も頼んで、1食900円×25日で月2万2千5百円。朝昼食とおやつを足しても食費を4万円以内にすれば、月5~6万円の年金で何とか収まりそうだ。

いよいよヨタヘロになったら小多機(小規模多機能型居宅介護)にお世話になろう。デイサービス通い放題、訪問ヘルパーに何回来てもらっても、要介護1なら月1万円ちょっと、要介護5でも3万円弱の介護のサブスクだ。食費を少し抑えれば、まだ年金で暮らせそうだ。

願わくは、これ以上物価が高騰せず、介護保険制度が改悪されないこと、だ。その為に今、出来ることをしていこう。

(緑町 環)

▲美味しくて心のこもったはぁと・ぽっとのお弁当



▲季刊 社会運動 no.451
見出しが衝撃的